

ない質問に答える能力を育てる」ことよりも、「個人の生き生きとして発する質問を受けとめる」ことの方が眞実に近い立場から、さまざまな学習センターを活用したグループ・ワークを主張している。

学習センターとは、学校内および学校の周辺に組織された教師も子どもも共に学習する場で、図書センター、視聴覚センター、ゲームセンター、科学センターの種類がある。そこでは、ひとりひとりの子どもが自分の価値を見出せるよう、また、次第にむずかしくなっていく発達課題をうまくこなしていくような配慮がなされ、ひとりで学ぶ喜び、同じ年齢や年齢の異なる友だちといっしょに学ぶ喜びを体験するのである。

このような学習センターをうまく活用するなら、特徴のあるやり方で子どもを育て、個々のパーソナリティを尊重しな

がら個性を生かした教育ができ、それと同時に教師もまた、センターでのグループ指導を通して子どもたちに意味のある質問をしたり、技能や能力を促進する機会を得るにちがいないと主張している。

その他、W・ノリンの「いくつかのグループピーリングの実践」では、年齢や能力による古いグループピーリングからチーム・ティング、中間学校、無学年制等の新しいグループピーリングまでのさまざまな実践をグループの歴史から論じ、子どもを自己の「わく」の中で自律的に成長させようとする人々に新しいグループピーリングが大きな可能性をもつものであることを指摘している。

この号には、教師の努力によって、レヴィスという少年がサマー・スクールのグループに適応していく過程を扱った感動的な実践例も紹介されている。(O)

幼児の教育 第六十八巻 第七号

七月号 ◎ 定価八〇円

昭和四十四年六月二十五日印刷
昭和四十四年七月一日発行

東京都文京区大塚二ノ一
お茶の水女子大学附属幼稚園内
編集兼
発行者 津 守 真

112 東京都文京区大塚二ノ一
お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村一ノ一

印刷所 凸版印刷株式会社

101 東京都千代田区神田小川町三ノ一
発売所 株式会社 フレー贝尔館
振替口座 東京一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売所フレーベル館にお願いいたします